

令和3年8月発行 第238号



みどりのアスパラガス

北広島市しょうがい児者を持つ親の会
発行責任者 加藤裕子

<http://oyanokai.sunnyday.jp/>



真夏の暑さと、連日のオリンピックの熱さが続いています。マスクの暑さを耐えて、
乗り切って行きましょう！

賛助会員ご入会ありがとうございました。

(順不同・敬称は省略させていただきます)

【個人様】

(北海道札幌養護学校共栄分校)



(社会福祉法人 えぼっく)



一般社団法人北海道知的障がい福祉協会主催

みんなあーと2021『芸術の力 燃える心』

◆日時 9月30日(木) 9時から17時
10月1日(金) 9時から17時
10月2日(土) 9時から17時

◆会場 かでる展示ホール

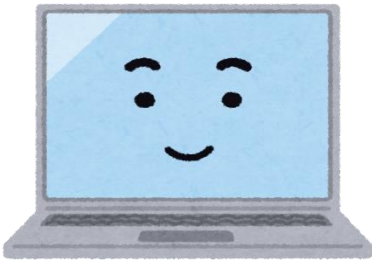
◆申し込み締め切り 9月7日

詳細は、副会長 中川までご連絡ください。



第 66 回北海道手をつなぐ育成会全道大会 岩見沢大会

オンライン参加報告



昨年度の全道大会はコロナ禍の中、やむを得ず中止となりましたが、今年度は初のオンラインでの開催となり、加藤、中川、斉藤が参加しました。

道育成会会長佐藤春光氏をはじめ、全国手をつなぐ育成会 久保会長、又村事務局長は、現地岩見沢の会場からご参加されていました。

シンポジウムのテーマは「今後の育成会活動について」でした。提言者としてお話をされた、又村あおい氏の言葉には、実に心に刺さるものがありました。

過去の振り返りの中で『井戸の水を飲んでいることは当たり前のことであるが、井戸を掘った人のことを忘れてはならない。』と発言されていました。

今の学校教育の就学義務化、障がい者雇用に係わる仕組み、福祉サービス、権利擁護の分野の法制度は、決して初めからあったわけでも、いつの間にかできたものでもなく、今の制度やサービス等は『当たり前のこと』ではないことを、忘れてはいけないと改めて思いました。

又村さんからは、これからの育成会の活動として「例えばこんなこと…」と、いくつかのヒントをいただきました。また児童期の親御さんに着目し考えると「10年後の制度化より半年後の運用改善」、「年齢で区切るより、生活課題(将来課題)に着目して参加を呼びかける」「新型コロナは、育成会の活動に影響を及ぼしましたが、他方で「新しいつながり」を構築するきっかけにもなった」など考え方のヒントを頂きました。

今後の事業体としての活動として、「知的・発達障害ある人が地域で暮らすために必要なサービスを自ら生み出す。」「たとえ数が少なくても、チャレンジングな取り組みであっても、知的・発達障害ある人のニーズを受け止めたサービスを展開する。」「知的・発達障害ある人の支援特性に配慮した支援サービスの拡充や質の向上を図る。」ことを上げ、活動の一つの柱として今後も重要だとおっしゃっていました。



地域での暮らしの中で、ニーズがあるのに、生活に必要なのに、「うちの子はこんなことは無理である」と考えていると、そのニーズは声にならず、行政サイドに「ニーズはないのだ、必要ないのだ」判断されてしまう『不の連鎖』を生んでしまうと話されていました。まさにその通り！！と、PCの前で大きくうなずいていました。とても学びの多い時間でした。

大会テーマである「だれもが自分らしく暮らせる社会を」は、待っていても実現はしないこと、待っていても、多くの人や社会には、私たちのニーズ、ご本人たちのニーズは、伝わらない、知ってもらえないことを再確認しました。

斉藤

全肢連×心魂プロジェクト

♪オンラインコンサート♪

◆2021年8月7日（土） 午後7時30分～9時

◆演目：ディズニーミュージカル他

◆視聴方法：YouTube

当日は下記 URL か QR コードから視聴ください。

<https://youtu.be/LeCgHrw9UqU>



※ 心魂プロジェクト ※

「ワクワク、ドキドキ、感動は全ての人に等しく与えられた権利である」という理念の元に劇団四季出身俳優や元宝塚劇団女優を中心としたデリバリーパフォーマンスを展開している。

公式ホームページ <https://www.cocorodama.com/>



令和3年度北海道自閉症協会総会ご報告

7月4日（日）北海道自閉症協会総会は、今年度もリモートにより開催されました。全道から、会長、副会長をはじめ、道南分会、札幌分会、旭川分会、オホーツク分会、十勝分会、釧路分会、苫小牧分会、北広島分会が集まりました。

今年度は、事務局長の役割を各分会で分担し、事務局として体制を整えることとなりました。北広島分会は、道自閉症協会の会報誌「ともしび」の編集を、オホーツク分会様と分担し、担当することとなりました。

また、令和4年度以降は、北海道全体でのテーマで、講演会などの事業展開をしていくことになりました。

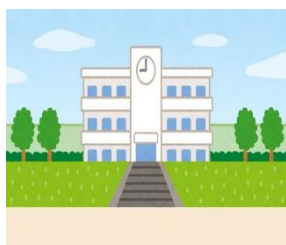
せっかくの機会でしたので、各分会へコロナ禍において、緊急事態宣言中の日中一時支援やショートステイ（短期入所）などのサービス提供について、緊急事態宣言解除後のサービスの再開について、ワクチンの接種に関しての状況を伺ってみました。

すべての地域の状況をお聞き出来たわけではありませんが、地域ごとに温度差はかなりありました。緊急事態宣言下であっても、サービスの提供（ショートステイ等）は制限なく利用できた地域もありました。ワクチン接種についても、通所先などでの巡回接種の予定もない地域もありました。

（6月末の状況）

道南分会では、ご本人や家族が新型コロナウイルス感染症にかかった時の対応について、今後関係機関と共にプロジェクトを立ち上げる予定があるとの報告がありました。今後の動向をまた伺いたいと思っています。

齊藤



『学校見学』～星槎国際高等学校北広島学習センター

6月30日に息子が通う中学校の特別支援学級の学校見学会で、星槎国際高等学校北広島学習センターに行ってきました。

場所は北広島市中の沢149番地にある道都大学構内、高校は3号館3階の1室にホームルーム教室がありました。特別支援学級を見慣れてしまうと、大学の講義室のような、机が床に固定、椅子が折り畳み式、教室にはロッカーが無い教室は席が狭い、荷物はどこへ?と不安に感じました。北広島校は昨年オープンされ、1名からスタートし現在は10数名の生徒が在籍しているそうです。

北広島学習センターは「大学とともにある高校」をテーマに、星槎道都大学のスポーツ、ビジネス、アート、建築、社会福祉の学びの資源をふんだんに取り入れながら、大学と高校の垣根を超えた全く新しい学び作りを実践する場として、①高校生のうちから、大学の学びを体験できる。②中学校の成績は問わない、学校が生徒に合わせる学校。週1日から5日まで選べる登校日数。通信制の仕組みを活かして中学校の基礎学習から大学の授業まで生徒に合わせてコーディネート。説明してくれた先生によると、1人ひとりに合わせた特別支援教育との事でした。

部活は生徒一人からでも希望があれば、立ち上げてくれるとの事で、高等支援学校では、やりたい競技が出来無い息子にとっては一番に魅力的に感じたようです。

入学試験について、個別相談→体験入学→出願→作文→面接→合否と説明されました。

初年度校納金についてですが、登校日数、週1～年数回、週3日、週4日、週5日から選択し、週3日登校で607,000円、週5日登校で807,000円。就学支援金対象であると、そこからー120,300～300,750円が実質負担額だそうです。

大学側構内も見学したのですが、廊下に展示された生徒の絵画作品はどれもとても素晴らしく、建築専攻の学生さんが作った建築の模型(?)や木工作品が飾られていました。木工製品は高等支援学校の作品の完成度の高さを改めて感じました。正面玄関側から入る時に上りのエスカレーターはあるのですが、下りは階段のみ。別な入口からだとエレベーターがあると思うのですが、気になった点でした。

昨年からのコロナの影響で、高校見学が出来ない中、今回見学させて頂けて、今年中学1年生は初めての高校見学で良い経験になったと思います。3年生の中では、星槎高校は1番人気が高かったようです。

仲上



【活動報告】

- 6月10日 役員会
- 6月26日 北海道自閉症協会役員会 ZOOM (仲上、斉藤)
- 7月4日 北海道自閉症協会 令和3年度総会 ZOOM (斉藤)
- 7月8日 役員会
- 7月20日 自立支援協議会生活支援部会 ZOOM (斉藤)
- 7月31日 第66回北海道手をつなぐ育成会全道大会 岩見沢大会
オンライン中継 (加藤、中川、斉藤)

この会報は、会の趣旨に賛同下さる方々に、私たちの活動を広く紹介する目的で発行しています。ほかの目的に使用しないよう、また、破棄する場合は取り扱いにご注意下さるようお願いいたします。

会報担当
【中川 斉藤 佐藤 井上】